令和７年３月２６日
国土交通省東北地方整備局
成瀬ダム工事事務所

「第２回 成瀬ダム水源地域ビジョン策定委員会」
開催結果について

ダムは治水・利水の役割に加え、新たな観光資源として水源地域の活性化にも期待されています。
水源地域の自立的・持続的な活性化を図るためには、水源地域および流域の自治体や住民、関係機関等と広く連携していくことが重要であり、地域資源とダムを組み合わせ、地域の魅力を最大限に引き出し、流域全体の発展を目指す必要があります。
成瀬ダムでは、令和９年度のダム完成に向けて、活性化の具体策を検討するため、令和６年１２月２６日に「成瀬ダム水源地域ビジョン策定委員会」を設立しました。
本日、第２回策定委員会を開催し、水源地域ビジョンの柱となる「基本理念と基本方針」を決定しました。また、今後の検討内容の充実や推進を見据えた検討体制の拡充に向けた協議や、令和７年度の策定委員会やダム活ミーティング等のスケジュールについて協議を行いました。

要旨

１．基本理念・基本方針について

・成瀬ダム水源地域ビジョンの取組目標となる「基本理念」を決定した。
・今後、具体の施策を検討するにあたっての方向性を示す「基本方針」を決定した。
・上記については、今後の進捗や社会情勢の変化等に合わせて柔軟に変更していく旨を確認した。

《基本理念》
“成瀬ダム×地域資源×連携”でみんなが人と風土の豊かさを実感できる地域づくり

２．今後の検討体制の拡充に向けて

・教育関係、メディア、河川協力団体等の参画、アドバイザーとなる専門家の参画等による検討体制の拡充について意見が挙げられた。
・今後、協議内容に応じ、新たな参画者との調整を行っていく。

３．次年度スケジュールについて

・策定委員会は２回を予定する。なお、幹事会は２回を想定するが、内容に応じて適宜開催する。
・ダム活ミーティングは令和７年１０月頃の開催を想定し、企画・準備を進める。
・これまで試行してきた「上下流交流」「成瀬の森づくり」の取組について、策定委員会の枠組みで実施することとし、地域間の連携を強化し、企画・運営を行っていく。

第２回 成瀬ダム水源地域ビジョン策定委員会

出席者名簿

	所 属	役 職	氏 名	備 考
学識経験者	秋田大学　教育文化学部 地域文化学科	教授	林　　武司	委員長
観光	一般社団法人 秋田県観光連盟	専務理事	小玉　博文	WEB参加
水利用	秋田県雄物川筋土地改良区	理事長	柿﨑　幹夫	
地域活動	NDM（なるせダムミーティング）取組推進部会	代表	鈴木　　実	代理 副代表　谷藤　司
行政機関	秋田県雄勝地域振興局	局長	加賀谷 由博	
	横手市	市長	髙橋　　大	
	湯沢市	市長	佐藤　一夫	
	大仙市	市長	老松　博行	代理 上下水道事業管理者 舛谷　裕幸
	東成瀬村	村長	備前　博和	
	東成瀬村 教育委員会	教育長	大沼　一義	
	国土交通省成瀬ダム工事事務所	所長	安部　　剛	

第２回　成瀬ダム水源地域ビジョン策定委員会

日時：令和 7 年 3 月 26 日（水）10:00～11:30
場所：東成瀬村役場 防災情報センター会議室

議 事 次 第

１．開　会

２．挨　拶　　成瀬ダム工事事務所長

３．報　告
　成瀬ダム “ダム活”キックオフミーティング開催結果

４．議　事
　（１）基本理念・基本方針について
　（２）今後の検討体制の拡充に向けて
　（３）次年度スケジュールについて

５．その他

６．閉　会

基本理念・基本方針（案）

1．基本理念と基本方針 検討の流れ

成瀬ダム水源地域ビジョン 策定までの流れ

令和6年度

1．水源地及び下流域地域の概要
- 各自治体の地域づくりの将来像
- 各自治体の観光に関する計画
- 各自治体の特性
- 各自治体の課題　等

2．基本理念と基本方針
→ 関係者が共有できる基本理念（取組の将来像）ならびに、基本方針をとりまとめ

必要に応じて見直し

令和7年度

3．行動計画（活性化の方策）
→ 取組の具体のテーマ・メニュー・その効果等をとりまとめ
※成瀬ダムの“ダム活”取組名称の検討（ダム湖の名称含む）

必要に応じて見直し

令和8年度

4．推進方策
→ 実施体制や目標スケジュール等のロードマップ、フォローアップ計画等をとりまとめ

※試験湛水 冬季開始

令和9年度

成瀬ダム水源地域ビジョン とりまとめ

《「基本理念と基本方針」検討の流れ（案）》

■インプット
- ○上位計画 → 県・各市村の総合計画、観光振興計画、水源地整備計画 等
- ○これまでの意見 → なるせダムミーティング（NDM）、行政ワーキング
- ○第１回策定委員会、第１回幹事会
- ○“ダム活”キックオフミーティング
- ○成瀬ダム建設後等の課題　　等

［今後のブラッシュアップ］　※既存組織（なるせダムミーティング取組推進部会）
NDM＋※、個別部会、ダム活ミーティング、各団体　等の意見

水源地及び下流域地域の概要

各市村に共通する地域づくりの**将来像**

各自治体の**特性**

各自治体の**課題**

水源地域ビジョンの目的

地域の**ポテンシャル**
- 既往の強み
- 秘めたポテンシャル

水源地域ビジョンで解決を目指す課題

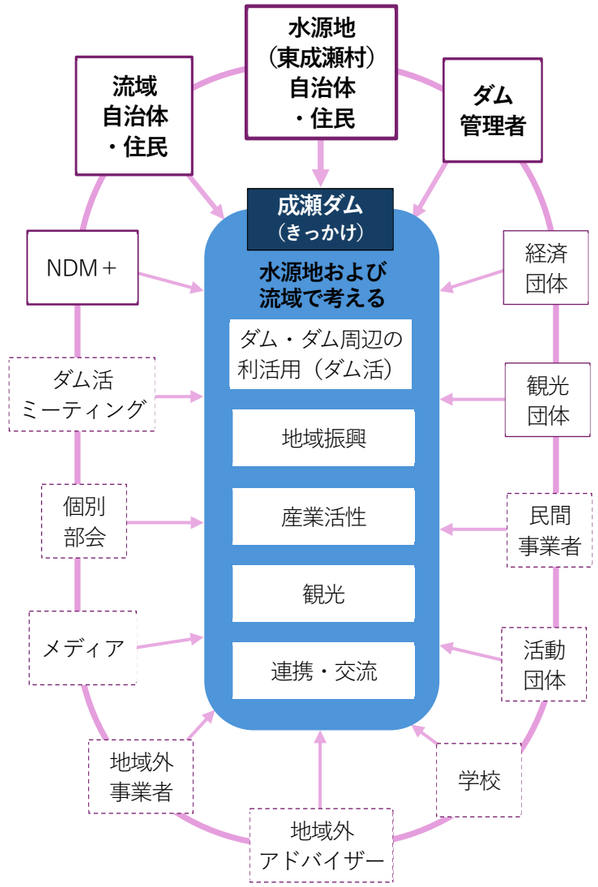
基本理念
水源地域ビジョンの取組で目指す将来像

基本方針
基本理念を踏まえ、地域のポテンシャル等を活かして検討を進めていく取組の方向性

《検討・推進体制イメージ》

・水源地域（東成瀬村）が中心となり、流域の自治体・住民及び関係機関等と一体となり、検討を進める

・既存組織、関連団体等の意見を踏まえ、また、内容に応じて参画いただきながら、検討を進める



2．基本理念と基本方針（案）

（1）基本理念（案）

《各市村に共通する「地域づくり」の将来像》

■高質な田舎
■心のうるおい、やすらぎ、温かさ
■豊かな自然・文化・観光資源等の活用
■ブランド化・高付加価値化
■周辺との連携　　等

《各市村に共通する「観光」に関する方向性》

■高質な田舎のおすそ分け
■何度も訪れたくなる
■交流人口、関係人口の拡大
■四季を通じた魅力の創造（通年観光へ）
■滞在型観光への移行、体験型観光の充実、高付加価値化
■周辺地域との連携強化
■効果的なプロモーション・情報発信　　等

《地域のポテンシャル》

■既往の強み
・豊富な地域資源　　・独自の文化
・人　　・新たな地域振興の動き
・場所性　　・充実した教育環境　等
■秘めたポテンシャル
・新たな観光等の可能性　　・地域の知名度向上
・地域間連携の強化　　・成瀬ダムの活用　　等

《第１回委員会・幹事会・ダム活キックオフミーティングでの知見》

■様々なパートナーを迎える（体制の整備・充実）
■現状がよくなり、それを次世代に繋げる
■流域全体のコンテンツを組み合わせる
■県内・国外だけでなく、県内からの誘客も視野に
■心の豊かさにつながる
■それぞれができることを体現する
■ダムとの関わりに気付いてもらう
■鳥海ダム－成瀬ダムをつなぐような取組　　等

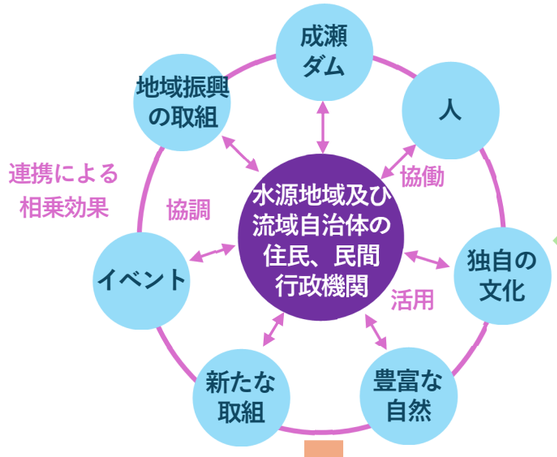
ターゲットイメージ
〇地域住民
〇秋田県民（雄勝地域以外の）
〇現在通過してしまっている人、イベント目的の来訪者
〇地域独自の文化の学習・体験（子供たち、他地方）
〇ダムや自然を巡るドライブ・ツーリング・ハイカー
〇雪や独特な文化体験を目的とした外国人旅行者

◎豊富な地域資源を活かした魅力づくり（周遊、体験、特産品、テーマ・ブランド）
◎住む人、訪れる人がうるおい、安らぎ等が実感できる伝統・文化や風景の保全・活用、おもてなしの心の醸成
◎再び訪れたくなるような、長く留まりたくなる地域文化等の体験の充実や、資源の高付加価値化
◎各地域のポテンシャルを活かした相乗効果
◎効果的なプロモーション・情報発信

基本理念（案）

“成瀬ダム×地域資源×連携”で
みんなが人と風土の豊かさを実感できる地域づくり

●雄物川上流域の人の魅力や風土の豊かさを通した心のうるおい・安らぎを、住む人・訪れる人が共に実感できる地域づくりを目指す
●ダム完成後の工事関係者の減少・経済効果減少の影響を補完する、交流人口・関係人口の拡充を目指す
●上下流（水源地と雄物川流域）の交流や教育面での取組を視野に、地域内外の理解や郷土愛の醸成を目指す
●そのため、成瀬ダムの完成を契機に、水源地域及び流域の自治体、隣接する自治体等の住民、民間及び行政機関が連携し、
・豊かな地域の自然・文化・観光資源等の保全や活用
・新たな地域の資源としてダム・ダム湖及びダム周辺を活用（ダム活）　するハード・ソフトの取組の具体化を図る



取組（連携）体制
〇雄物川流域の自治体（行政）間の連携
〇各地域の活動団体（民間）間の連携
〇官民連携
〇県を跨いだ連携（岩手、宮城等）
〇各地の地域おこし協力隊やシニア層
〇ダムを通じた広域連携
〇ダム工事従事者等との連携
〇河川協力団体（新規含む）との連携
〇ダム湖を活用したアクティビティ団体との連携　等

・心のうるおい、やすらぎを住む人、訪れる人が共に実感できる地域
・交流や教育等の取組を視野に、地域内外の理解や郷土愛の醸成
・交流人口・関係人口の拡充

基本理念イメージ図

（2）基本方針（取組の方向性）（案）

「成瀬ダムをきっかけ」に水源地域及び流域の自治体、住民及び関係行政機関等が連携し解決を目指す課題 ※再掲

課題解決に向けて活かす地域のポテンシャル

基本理念（案）※再掲

“成瀬ダム×地域資源×連携”でみんなが人と風土の豊かさを実感できる地域づくり

地域への意識醸成

●上下流交流や環境教育等による**他地域への理解向上**、郷土愛の醸成、環境保全意識の醸成
●地域固有の伝統・文化の継承、再発掘

- 豊富な地域資源
- 独自の文化
- 充実した教育環境
- 秘めた魅力的な資源
- 各自治体の特徴的なテーマや売り
- 独自性の高い体験
- 高齢者等の活躍の場

人材・交流

●ガイドや語り部等の人材育成
●おもてなしの体制、受け入れ体制の充実
●関係人口、交流人口の拡充によるダム工事完了後の影響の低減

- 様々な地域づくりの活動団体の動き
- 多くの地域おこし協力隊
- 広域連携可能な立地
- 高齢者等の活躍の場

観光・集客

●ダム工事見学目的で訪れる来訪者の再訪意欲の喚起
●ダム周辺やダム湖等、新たな観光・集客拠点としての整備の具体化
●ダム周辺やダム湖等を活かしたアクティビティの開発による滞在時間の拡充
●ダム、地域間連携、各地域の資源を活かした、滞在型観光、周遊型観光への移行
●地域資源を活かした観光や特産物の高付加価値化、他地域との差別化
●周辺地域との連携、他県との連携も見据えた周遊、周遊コースの開発
●地域の特性を活かした観光の高付加価値化、他地域との差別化

- 豊富な地域資源
- 独自の文化
- 全国区で知名度のあるイベント
- ４市村で約 670 万人/年の観光入込
- 豪雪を活かした新たなコンテンツ
- 秘めた魅力的な資源
- 通過型観光者の増
- 隣接他県を含む広域な周遊ルートの可能性
- 成瀬ダム（日本最大級 CSG ダム）・ダム湖

産業

●ダムをきっかけとした特産物の開発等による、地域産業への寄与
●地域資源を活かした特産物の高付加価値化、他地域との差別化

- 豊富な地域資源
- 食文化
- 秘めた魅力的な資源
- 地域振興への機運の高まり

プロモーション・情報発信

●地域間連携による効果的なプロモーションや情報発信

- 全国区で知名度のあるイベント
- 各自治体の特徴的なテーマや売り
- 地域間連携、ダムを活かした連携の可能性

地域間連携・官民連携

●地域間連携、官民連携等によるダム周辺及びダム湖等の利活用
●地域間連携によるブランド化
●地域連携を促す取組、イベント等の開催

- 各地域での地域振興に向けた取組
- 成瀬ダムをきっかけとした地域振興への機運の高まり
- 地域間連携の拡大の余地
- 広域連携可能な立地
- ダムを活かした連携の可能性

赤太字：特に水源地における喫緊の課題
青字：既往の強み
緑字：秘めたポテンシャル

基本方針（取組の方向性）（案）

方針１：郷土の歴史・文化の継承、地域への意識醸成

◎成瀬ダム、雄物川等を題材とした環境教育、自然教育を推進し、地域の環境保全意識を醸成
◎各地域の資源、特徴、体験、テーマ等を活かした上下流の学校や住民等の交流を推進し、地域相互の歴史・文化等の理解促進
◎多年代の交流により、秘めた地域資源の発掘等に取り組み、郷土愛を醸成

方針２：「人と風土の豊かさを実感する」魅力向上

◎豊富な地域資源、独自の文化の継承・活用による他地域との差別化
◎新たな地域資源として成瀬ダムやダム湖を活用した魅力づくり
◎ガイドや語り部等の人材育成、おもてなしの素地づくり
◎インバウンドも想定した受け入れ体制の整備や、雪や独自の文化等を活かしたコンテンツ作り
◎既往のイベントの連携や、新たなイベントの実施等による地域の魅力発信
◎地域との繋がりが感じられる体験コンテンツの充実
◎上記による地域への関心、地域との関わりを促進し、関係人口、交流人口を拡充

方針３：地域内の周遊観光の拡充から滞在型観光へ

◎新たな地域資源として成瀬ダムやダム湖を活用した拠点づくり
◎成瀬ダム、全国区の知名度のあるイベント、隣接他県も含む周辺の観光地等と連携した周遊型観光（ツアーの造成）により、地域への立ち寄りを促す
◎通過する観光客の取り込みを狙い、ダム湖でのアクティビティの開発、様々な体験メニューの充実、地域内で周遊する仕組みやコースづくりを推進
◎ダム工事見学目的の来訪者に向けた地域資源・文化等の PR や体験の提供
◎個人旅行者、県内他地方の方に向けた、地域独自の資源・文化を活かしたおもてなしを行う滞在型観光（少人数、高付加価値）の推進

方針４：地域資源を活かした産業の活性化

◎来訪者、地域外の方向けに、成瀬ダム等をきっかけとした既存の特産品の磨き上げや、新たな特産品の開発
◎地域間連携によるブランド力の向上や販路の拡大
◎上記による来訪者、関係人口（地域の応援団、ふるさと納税等）の拡大

方針５：連携したプロモーション・情報発信等

◎全国区のイベントや独自の文化等を連携して情報発信、PR することによる知名度向上
◎ターゲットに応じたプロモーション、情報発信の展開
◎隣接する他ダム等と連携したプロモーション展開
◎統一したシンボルやデザインを用いたイメージ展開

方針６：雄物川流域、周辺地域等との連携・協調

◎雄物川上流地域（東成瀬村、湯沢市、横手市、大仙市）間を中心に、下流域や県外の隣接市町村、ダム管理者、民間、活動団体等が連携・協調し、取組を推進
◎ダム工事に従事している方々との継続的な協力関係の構築

紺太字：優先度が高いと思われる取組

今後の検討体制の拡充に向けて（案）

■策定委員会

	所属	役職
学識経験者	秋田大学　教育文化学部 地域文化学科	教授
観光	一般社団法人 秋田県観光連盟	専務理事
水利用	秋田県雄物川筋土地改良区	理事長
地域活動	NDM（なるせダムミーティング）取組推進部会	代表
行政機関	秋田県雄勝地域振興局	局長
	横手市	市長
	湯沢市	市長
	大仙市	市長
	東成瀬村	村長
	東成瀬村 教育委員会	教育長
	国土交通省成瀬ダム工事事務所	所長

■幹事会

	所属		役職
観光	一般社団法人 東成瀬村観光物産協会		会長
産業	東成瀬村商工会		会長
水利用	秋田県雄物川筋土地改良区		事務局長
地域活動	NDM（なるせダムミーティング）取組推進部会		代表
行政機関	秋田県雄勝地域振興局	建設部	次長
		総務企画部 地域企画課	課長
	横手市	建設部 建設課	課長
		商工観光部 観光おもてなし課	課長
		教育委員会 教育指導課	課長
	湯沢市	産業振興部 観光・ジオパーク推進課	課長
		建設部 建設課	課長
		建設部 上下水道課	課長
		教育委員会 生涯学習課	課長
	大仙市	建設部 道路河川課	課長
		観光スポーツ部 観光交流課	課長
		教育委員会事務局 教育指導課	課長
	東成瀬村		副村長
		教育委員会	教育次長
		産業振興課	課長
	国土交通省 成瀬ダム工事事務所		副所長

現体制の課題

○行政機関が中心
○以下観点の方が不在
・東成瀬村以外の地域活動代表
・教育関連
・観光、ツーリズム（インフラツーリズム、グリーンツーリズム等）の専門家
・ダム活（湖面利用、ダム周辺利用）等に関する専門家
・プロモーション等に関する専門家

○行政機関が中心
○以下観点の方が不在
・東成瀬村以外の地域代表
・東成瀬村以外の観光協会、商工会
・観光、地域おこし等の実践者
・ダム活（湖面利用、ダム周辺利用）等が想定される団体
・プロモーション等に関する実践者

今後参画を想定する組織・団体等（例）

◎河川国道事務所
◎下流域のキーマン
◎秋田県教育委員会
◎観光、ツーリズム等の専門家
◎メディア
◎アドバイザー（専門家）
・観光
・地域活動

◎河川国道事務所
◎各地域の活動団体
◎各地域の観光協会、商工会
◎ダム湖の活用が想定されるアクティビティ団体
◎観光、ツーリズム等の実践者
◎ＪＡ
◎河川協力団体
◎メディア　　等

※活動の実践者等は**「活動部会」の設立も視野**に

※事前意見照会結果
【横手市】
・一般社団法人 横手市観光推進機構（DMO）
・一般社団法人 横手市観光協会

参考：津軽ダム水源地域ビジョン 検討体制

■策定委員会

法人名・団体名・所属		役職
青森公立大学	（委員長）	学長
八戸工業大学	工学部	教授
弘前大学	農学生命科学部	准教授
西目屋村	村議会議員	議　長
西目屋村	村議会議員	副議長
公益社団法人弘前観光コンベンション協会		会長
弘前商工会議所		会頭
あおもりの川を愛する会	親しめる川づくりサークル	リーダー
株式会社東奥日報社弘前支社	編集部	部長
株式会社陸奥新報社	編集局報道部	部長
西目屋村		村長
青森県	県土整備部	部長
弘前市	建設部	部長
林野庁東北森林管理局	津軽森林管理署	署長
弘前市	教育委員会	教育長
西目屋村	教育委員会	教育長
国土交通省東北地方整備局	河川部	部長
国土交通省東北地方整備局	津軽ダム工事事務所	事務所長

■幹事会

法人名・団体名・所属		役職
弘前大学	農学生命科学部　（幹事長）	准教授
西目屋村		村議会議員
西目屋村		村議会議員
西目屋村		村議会議員
西目屋村		村議会議員
西目屋村	総務課	課長
西目屋村	産業課	課長
西目屋村	教育委員会　教育課	課長
青森県　環境生活部	自然保護課	課長
青森県　中南地域県民局	地域連携部　地域支援室	室長
弘前市　建設部	建設政策課	課長
弘前市　観光振興部	国際広域観光課	課長
アップルウェーブ株式会社	放送部	総括マネージャー
社会福祉法人西目屋村社会福祉協議会		事務局長
楽しいね東目屋！実行委員会		代表
弘前大学大学院	農学生命科学研究科	修士二年
国土交通省東北地方整備局	津軽ダム工事事務所	副所長

■活動部会

法人名・団体名・所属	役職
青森県カヌー協会	理　事
ＮＰＯ法人岩木山自然学校　（副会長）	顧　問
谷口ＥＳＤ環境教育事務所	代　表
白神マタギ舎	事 務 局
（有）青弘トラスト　（ＢｅＦａｖｏ）	代表取締役
財団法人ブナの里白神公社	支 配 人
白神山地ビジターセンター	館　長
西目屋村商工会	理　事
ＪＡつがる弘前　指導部農業振興課	農業振興係長
公益社団法人弘前観光コンベンション協会	事務局長
弘前商工会議所　青年部	会　長
一般財団法人白神山地財団　（会　長）	理事長
（有）ヒーリングエコツアーＰＲＯガイドエコ・遊	代表取締役
公益社団法人　弘前青年会議所	理 事 長
ＮＰＯ法人つがる夢庭志仙会	理 事 長
NPO法人コンピューターシステム調達の適正化研究会	理　事
環境省西目屋自然保護官事務所	自然保護官
西目屋村　総務課	行政推進経営係長
西目屋村　住民課	主任保健師
西目屋村　産業課	観光係長
西目屋村　産業課	主　査
西目屋村　建設課	建設係長
西目屋村　教育委員会	主　事

次年度スケジュールについて

■令和７年度予定

令和７年 ５月：第３回 幹事会（令和７年度の対応方針、スケジュールの確認）
６月頃：成瀬の森づくり（春）
７月：第３回 策定委員会
８月頃（夏休み期間中）：上下流交流会
10月頃：ダム活ミーティング開催
10～11月頃：成瀬の森づくり（秋）
12月：第４回 幹事会
令和８年 １月：第４回 策定委員会

参考
これまでの取組

成瀬の森づくり

○概要：
成瀬ダム周辺跡地の緑化に向け、緑化に用いる「苗木」を地域参加型で育てていく取組

○体制：
・東成瀬村とダム事務所で検討、イベント主催
・横手市、湯沢市、大仙市と連携（チラシ配布等）

○取組状況：
・R5年から、地域参加型のイベントを開始。春と秋２回開催。
・将来にわたり継続させるための運営方法・体制等を検討中


成瀬の森づくりの様子
（R5年6月）

上下流交流

○概要：
上下流の方々が交流をしながら、利水・治水や、互いの地域の環境・歴史・文化等の理解を深める活動

○体制：
・東成瀬村とダム事務所で検討、イベント主催
・横手市、湯沢市、大仙市と連携（チラシ配布等）

○取組状況：
・流域の小学生を対象とした交流会をR2～R6年度に計4回試行



